

名古屋アイスロータリークラブ

RID2760 THE ROTARY CLUB OB NAGOYA IRIS

～ 世界へのプレゼントになろう Be a gift to the world ～

2015-16 年度国際ロータリー会長 K.R. “ラビ” ラビンドラン

例会日:毎週水曜日 13:00～14:00

例会場:ANA クラウンプラザ グランコートホテル名古屋

創 立:2013 年 6 月 5 日

会 長:安井 忠 「楽しく・深く理解するアイリス」



- 斉唱 君が代、奉仕の理想
- 司会 安井嗣博 会員
- 出席者報告 出席者数 29 名 / 会員数 37 名
出席率 78.37%
前々回(第 101 回)修正出席率は 78.37%(29/37)

■ 本日のゲスト・ビジター紹介

東名古屋分区 ガバナー補佐 藤田義明様

東名古屋分区 地区副幹事 野田正治様

東名古屋分区 分区幹事 堀口久様

名古屋北 RC 特別代表 浦野三男様

名誉会員 名古屋北 RC 水野吉紹様

■ ニコボックス報告

東名古屋分区 ガバナー補佐 藤田義明様

東名古屋分区 分区幹事 堀口久様

東名古屋分区 地区副幹事 野田正治様

本日ガバナー補佐訪問に地区副幹事として同行させて頂きました。宜しくお願いいたします。

3 名様よりから高額の寄付いただきました。

名古屋北 RC 特別代表 浦野三男様

地区ガバナー補佐をお迎えして

名誉会員 名古屋北 RC 水野吉紹様

補佐訪問日おじゃまします。

安井 忠 会長

本日は誠に忙しい中藤田ガバナー補佐、野田地

区副幹事、堀口分区幹事をお招きしての 9 月第一例会です。例会後クラブ協議会がありますのでご協力の程宜しくお願いいたします。

島村 恵三 幹事

藤田ガバナー補佐、野田地区副幹事、堀口分区幹事ようこそアイリスへ。本日は宜しくお願いいたします。

荒山 久美 直前会長

昨夜、女子会で楽しいひとときを過ごしました。またやりたいですね。

藤森 淳 副会長

藤田ガバナー補佐、野田地区副幹事、堀口分区幹事、ようこそアイリスへ。今日はお手柔らかに。

櫻井 孝充 会長エレクト

藤田ガバナー補佐、野田地区副幹事、堀口分区幹事本日は 1 RC のために遠路を賜り有難うございます。よろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

■ 今月の誕生日

山田真理 会員

■ 会長挨拶

今日は 9 月に入りました。

本日は地区より東名古屋分区カバナー補佐、葵ロータリークラブの藤田義明様、野田正治、地区副幹事様、堀口久分区幹事様をお迎えしての例会であります。

私達ロータリークラブはロータリー財団のグローバ

ル補助金を使って全世界に支援をしています。

ロータリー財団管理委員長と国際ロータリー理事会は将来の夢計画の一環としてグローバル補助金をロータリアンが主体となって参加する長期的なプロジェクトに資金を提供するものです。

今月 9 月の国際ロータリー行事は財団の 6 つの重点分野

1. 平和と紛争予防／紛争解決
2. 疾病予防と治療
3. 水と衛生
4. 母子の保健
5. 基本的教育と識字率向上
6. 経済と地域社会の発展

の中の 5 番目世界へ基本的教育と識字率向上の月間です。

社会奉仕活動の一環として基本的な知識をもって頂く様、産業育成に私達は力を出さなければなりません。

ロータリーは全ての子供の為の教育を改善し子供と成人の識字率を高める為の活動と研修を支援します。この重点分野の目的と目標ロータリー財団はロータリアンが以下のような形で人々の基本的教育と識字能力取得を支援する事を可能にします。

1. 基本的教育と識字能力を全ての人々に与える地域社会の力を高めるプログラムを支援し地域社会の参加を促進。
2. 地域社会における 成人の識字率の向上。
3. 教育における男女格差を減らす為の活動。
4. 基本的教育と識字率向上に関連した仕事で活躍して行く事を目指す専門職業人の為の奨学金支援識字とは文字を読んだり書いたりする事又、数字の計算が出来るという意味であります。

1997年7月のR I 理事会で毎年7月が識字率向上月間に指定され識字能力向上は2005年までR I 強調事項となりました。

その後7月からこの9月に変更されましたが識字能力向上月間はR I の特別月間でありロータリーでは地域の識字水準がその地域の生活水準に直結すると

の観点からこの月間中読み書きや計算の出来ない人達を援助する為にロータリー地域、社会共同隊、ローターアクトクラブ・インターアクトクラブ・世界社会奉仕・ロータリー、ボランティア・その他の既存プログラムを通して識字率の向上に取り組んでおります。

代表的なプロジェクトは一番最初に始められたタイの遊びながら文字を覚えていくという『ライトハウス(灯台)プロジェクト』であります。ライトハウス(灯台)作戦とはタイで最初に実施され その後多くの発展途上国で 成功を収めております。

灯台が安全な航路を示す様に 識字を通じて人々に歩む道を示す事を目的としています。

現代社会においては非識字者は社会から置き去りにされ生計の全てを失い非識字と貧困は悲惨な悪循環を生み出しております。世界には大人の5人に1人、約8億の非識字者がおりその半分はアジア人であると言われております。

アジアの一員である私達には益々厚い援助の期待が寄せられております。

又、学校に行けない1億人以上の就学年齢児がおりこのままでは世界の貧富の差は益々広がり 世界規模の社会不安は一層広がる事になるでしょう。

幸いな事にロータリークラブでは 1997～98年度のキンロスR I 会長が年度の方針として 識字率向上運動を目標に掲げそれまで大きな成果を挙げてまいりました。日本ユネスコ協会連盟の『世界寺子屋運動』と共に発展途上国で識字問題に取り組んでいる団体に資金援助を行い非識字の人々の為 学習が出来る場所を作り 学習に必要な教材 備品の購入 及び 識字活動の支援等を行なっております。

R I の識字率向上運動こそポリオプラスの後を継ぐR I の重要なプログラムであるとされております。どうぞ皆様方におかれましても識字率向上に向けて御理解して頂きます様お願い申し上げます。



■卓話

東名古屋分区ガバナー補佐 藤田 義明様

本年度、RI 2760 地区ガバナー補佐を務めさせていただき名古屋葵RCの藤田義明です。一年間よろしくお願ひします。

<RI テーマと地区方針>

RI 会長は、スリランカ コロンボRCの K.R. “ラビ” ラビンドラン会長であります。

本年度の RI 会長方針は、「Be a gift to the world」（世界へのプレゼントになろう）であります。加藤陽一ガバナーは「世界へのプレゼントになろう」を「世界へ奉仕する人になろう」に変えると理解し易いと解説しています。

本年度の地区方針は、「ロータリーの原点に学ぶ」～友情と寛容の輪を拓げよう～であります。加藤陽一ガバナーは近年ロータリアンになるハードルが低くなってきている中で、今年ロータリーの原点について勉強して頂きたいと思い「ロータリーの原点に学ぶ」としました。

<地区からのお願い>

ロータリー希望の風奨学金に、1,000 円／人の寄付をお願ひしたい。

2016 年国際ロータリーソウル大会のガバナーナイトに参加して頂きたい。

ロータリー財団・ロータリー米山記念奨学会に寄付をお願ひしたい。

第3回WF Fのチケットを、2枚（4,000 円）／人の購入をお願ひしたい。

<分区からのお願い>

第3回WF Fに東名古屋分区ブースを出店し、東日本大震災で被災した東北地区の物産品をブースにて販売します。多くの会員の方に物産品購入のご協力をお願ひします。

現在の名古屋名城RACの会員数は16名であります。提唱クラブとして名古屋名城RACの会員拡大に協力をお願ひします。クラブ当たり最低2名の新入会員の紹介をお願ひします。

2016年2月25日に、東急ホテルにて、「愛あるロータリー活動」のテーマのもと東名古屋分区 IM を開催します。IM にクラブの全員登録をお願ひします。

<会員卓話とホーム例会出席>

ロータリーの原点は、1905年に弁護士ポール・ハリスと3人の仲間たちが、ロータリー創設時に採択した「一業種一会員制の原則」と「規則的例会の出席」であります。「一業種一会員制」は、2001年の規定審議会で、制度的には変更されましたが、やはりロータリーの中核的原理だと思います。その地域のその業種を代表する人が、ロータリアンとなり、親睦を重ね、奉仕活動を行う。これがロータリーの原点であります。

そこから、導かれる例会の形は、ロータリアンが自己の職業について卓話するいわゆる会員卓話を中心となるべきであります。そして、この卓話を全てのロータリアンが聞く例会出席重視が重要ということになるのではないかと考えます。

これが「規則的例会の出席」の意味だと思います。名古屋アイリスRCの皆様も、その業界の代表者であります。その立派な異業種の代表者の卓話を聞いて自らを磨いていく。これが例会の大きな意味であると思います。ホーム例会を大切にしたいと思ひます。

<ロータリアンのアイサーブ>

ロータリーの奉仕活動について、日本ロータリーの創始者、東京RCの米山梅吉先生は「ロータリーは奉仕クラブではない」「クラブとして奉仕すべきものは原則として何もない。では、クラブは一体何をす

るところなのか。それは奉仕するロータリアンを育てるところである」と言っています。「個々のロータリアン一人一人が奉仕活動をする。」これが原則であり、ロータリークラブは、その個人を育てていく場と考えられます。

「奉仕の心を持ったロータリアンを育てる」には、クラブ例会を中心としたクラブ奉仕だと思えます。各クラブには諸先輩がつくられたクラブの歴史があります。その歴史と伝統を引き継ぎながら、クラブの将来の展望を考え、クラブ奉仕に重点をおいて、奉仕活動の一つでも多く考えて頂きたいと思えます。その奉仕活動で奉仕するロータリアンが育つと思えます。

「個々のロータリアン一人一人が奉仕活動をする」これがロータリーのアイサーブであると言われていいます。奉仕の心を企業生活に適用すれば職業奉仕になります。これがアイサーブの始まりです。

<愛あるロータリー活動>

IM のテーマに、「愛あるロータリー活動」としました。これは、クラブの慣習や形式に流されるのではなく、真心をもって、ロータリー活動を行ってほしいということです。

これは、本年度のガバナー方針「友情と寛容の輪を広げよう」とも共通します。心のこもった愛のある活動をクラブの各委員会でお考え頂きたいと思えます。

ロータリークラブは、基本的に、先ず楽しくなければなりません。酒を楽しみ、ゴルフや旅行を楽しむのも結構であります。ロータリー活動は楽しくなければ長続きしないと思えます。

例会もそうです。会員卓話の担当となつたとしても楽しく卓話をして下さい。例会に出ることがワクワクするようになっていただきたいと思えます。ただ一点、忘れてはならないことは、何をするにつけても、己の足らざるところを他のロータリアンから学ぶ姿勢を持つことでもあります。

ロータリアンがお互いに学び合うことによって自らを高め合うことでもあります。そこにロータリーの魅

力があると思えます。

ご静聴ありがとうございます。



また藤田義明ガバナー補佐から和合 RC 様からのお願いとしてウィング愛知での講演会への案内も頂きました。

以上